

阿弗利加の歴史産業交通の概況

H T 生

北阿と米英の趨勢

米國大統領ルーズヴェルトはカサブランカ會談を終へて歸國すると直ちに米國民に……諸君は聽て米軍を主體とする反樞軸軍の總反攻を見るに至るべく、更ればその時こそ我々は各戰線の敵を徹底的に殲滅するであらう……と得意満面で語り、又英國首相チャーチルは英國の下院に於て……我々の新たな作戦は萬事決定した。今はその實行を待つ許りである……と報告して、彼等は相互にその虚勢を張つてゐるが、その後にはける北阿の戦局は、かゝる米英側の希望的觀測を完全に裏切つて、逆に樞軸軍が壓倒的勝利を收めつゝあることは最近の外電に依つても判明するところである。即ち北阿反樞軸軍の總師アイゼンハワーは機

甲部隊の主力を擧げてアルゼリアの國境からチュニジアに迫つたが、東方モントゴメリーの率ゆる英軍との策應を缺いた結果、北阿チュニジアの國境に沿ふ小岳地帯に内線作戰の利を占めて待機せる樞軸軍のために猛烈なる反撃を蒙つて、それがためにトゼウル・ガフサ・フェリアナ・カセリン等國境附近の主邑は忽ちの内に樞軸軍の手中に歸して加ふに米軍機甲部隊の主力約一萬二千人は殲滅されたと報告されてゐる。又急を聞いてこれが援護に驅せ参じたアレキサンダー麾下の英軍も多大の打撃を受けた模様である。而して北阿における戦況は其後も依然として樞軸軍の優勢を傳へられてゐるが、既に獨逸軍の先鋒はテベツサ西北の要衝である、タラの附近まで迫り北部チュニジアとテベツ

ヲを結ぶ鐵道沿線に後退せる米英軍に重大なる脅威を與へ

つゝあるとのことである。米國陸軍長官スチムソンはこの北阿に於ける頽勢を挽回せんがために更に大規模の援軍派遣を極力主張したといはれてゐるが、現在米英側が極度に船舶の不足に悩みつゝある状態に於て輸送船舶を如何にして調達するか大いに疑問とするところであるが、假りに船舶の遺線りは付いたとするも、最近樞軸側の潜水艦の脅威は益々増大の度を加ふるに當つて、果してこれが輸送に安全を期し得るかは大なる疑問とするところである。而して北阿作戦の展開がこの船舶不足に益々拍車を加ふるの事情にあることは容易に窺知出来るのである。勿論米英は阿弗利加大陸の縦貫路を一層利用することをも考へられるが、兎も角米英側の蒙る打撃は只だ單に作戰上のみの問題に止まらずして、政治的にも相當深刻な影響を及ぼすものと思はれるのである。就中土耳其、西班牙、ポルトガル等と中立諸國に對する米英の謀略宣傳は今次の北阿戰によつて少なくとも其の効果は半減せらるゝであらうと思はれるので

ある。

世界第三の大陸

今次大戰と最近における北阿の形勢はかやうであるから阿弗利加は漸次爭奪線上に現はれて來る。この阿弗利加を觀察すると、阿弗利加は世界第三の大陸にして丁度我國の約四十倍の面積を持つてゐる。即ち大體三千九百万方籽世界總面積の約二〇%を占めて中央を赤道が通過してゐるので熱帶大陸である。只だ東部の高地と北方の山地が僅かに溫帶に入つてゐるだけである。その上に於て廣大なる沙漠、原始林、草地のために人間の住むところは比較的になく川は多くあるが、而も急流に加ふに瀑布が澤山あるから、従つて舟運の便がなく、又海岸線は三萬五百籽の永きにあるもその面積に比して短かく且つ良港に乏しいのである。住民の總數は僅かに一億四千三百萬にしてこれを一平方キロに割當てると平均五人に過ぎないのである。これを南アメリカの四・六人から比較すれば多少は多いが、歐洲の四六・六人に較べれば僅かに十分の一であつて世界平均密度

の一五・三人に對しても尙ほ三分の一に該當するのである。これから觀察しても大體阿弗利加の開發程度が測知するところが出来るのである。これを阿弗利加の内地的に見ると中部には原住民が非常に多く、南北では白人が割合に多く、アルゼリヤと南阿聯邦とは殊に白人が多く住んでゐるのに反してエチオピア、ギネア諸國、佛領西阿弗利加、佛領赤道阿弗利加、ウガンダ等では原住民は割合に多數住居してゐる。従つて阿弗利加は永く暗黒の大陸として前人未到の地を澤山残してゐる。それがリヴィングストンやスタンリー等によつて探檢せられて明らかになつたのは漸く十九世紀のことに過ぎないのである。思へば紀元前三千年の太古に既に高い文化を保有して、世界文明の發祥地として知られてゐた古代エジプトを持つ阿弗利加大陸の大部分が、現在から僅かに百年ばかり前までは殆んど吾々に知られてゐなかつた皮肉さを持つてゐたのである。

阿弗利加大陸の獨立國

この阿弗利加の廣き大陸に於て獨立を保つてゐたのは僅

かにエジプト、エチオピア及びリベリヤの三國のみであつたが、その内に於てエチオピアは千九百三十六年に伊太利國王がエチオピア皇帝の位を兼ねるに及んで伊太利に併合されたのである。又エジプトは前の大戦勃發と共に土耳其の羈絆から脱して英國に併合されて、大戦後には嚴重なる條件付で自治權を許容されたが、これは英國にとつて其の死命を制せらるべき地中海を守るにはエジプトの持つ意義は重大からである、更ればこそ以來二年餘に互つて獨伊兩軍は英國抗戰の牙城である、アレキサンドリア・スエズ運河の攻略に多大の力を傾け、又英軍はリビヤに於ける樞軸勢力の壊滅に全力を盡したのであるが何れも一進一退の状態にて現在の狀勢に至つてゐる、スエズ運河の重要性に付いては今更絮説を要しないが嘗てエジプトの總督であつたイスマイルはその國がスエズ運河の開通によつて國際場裡に登壇するを喜んだがレセツプスに對して……余も人に劣らず運河論者ではあるが、運河がエジプトの所屬となつてエジプトが運河の所屬物とならざることを欲する……と云

つたがその運河の出來上りとこの危懼は實現してスエズ運河は決して全くのエジプトのものとはならざるのみならず却つて事實はエジプトの利益に相反するの結果を生んだのである、これ以來エジプトの動向は英國にとつては大なる關心となつて、このエジプトを危含したる近東諸國までは英國の最も重要な軍用海洋路換言すれば印度及び印度洋に至る最短のルートを抱して英國の決定的重要性を持つためにエジプトは形式的には完全なる獨立國でありながら半植民性は脱却せずして財政外交軍事も英國の屬領的桎梏に呻吟しつゝあることはスエズ運河の開鑿がこゝに至らしめたに起因するのではないかと思はれるのである。スーダンには依然として英國の支配下にあり、運河地帯には英國の守備兵が駐屯してエジプトの對外政策は英國の意嚮に依つて左右されてゐる有様である。其他は前世紀の未に於て約二十年間に互つて行はれたる激烈なる阿弗利加爭奪の結果、この大陸は殆んど歐洲列強に依つて分割されて仕舞つたであつた。而してこの大陸に住む民族を人種的に見ると、

地中海沿岸から北方一帯に互つてハム族セム族、南方及びスーダンに住んでゐるニグロに大部することが出来るが、その内黒人とセム族の混種であるバーバリ人、ソマリ人などもハム族に屬し、また亞細亞民族移民の子孫はセム族に屬してゐる。而して古代阿弗利加は北南に區別されて地中海に沿つた北阿弗利加一帯は歐洲と接觸してヨーロッパの一部として共に繁榮したが、サハラ沙漠の以南は暗黒の大陸として永く世界線上には浮び出なかつたのであつた。然るにこの大陸に最初の侵略者はアラビヤ人であつて、中世紀に至つて北阿弗利加に侵入して回教徒の傳道植民地として傍ら數世紀間熱帶貿易を獨占して中部及び西部スーダンに至るまで通商の手を擴げたのであつた。このアラビヤ人の阿弗利加大陸に於ける活動は、奥地では主として商業的活動であつたが、東阿海岸に對しては八世紀以來専ら植民と都市の建設であつた。更に東阿弗利加の海岸を南下したアラビヤ人の勢力は遙かにモザンビック海峡を経て今回英國が不法占領せるマダガスカル島の南端に對するコリエン

エス岬にまで進出してゐる。かやうにして當時のこれらラビヤ人は何れも城塞を築いて數千の住民を有して都市國家として近隣を支配したのであつた。

歐洲列強の大陸着眼

歐洲諸國のこの大陸に着眼したのは十九世紀頃からであるが、英國は逸ち早く軍事上、經濟上、有利なる地點を獲得して、更に曩の世界大戰後には獨逸領をも委任統治としてその手中に收めて仕舞つたのである。その面積は阿弗利加全大陸の三十七パーセントに及んでゐる。これに續くのは佛蘭西領の三十五パーセントで、これにはヴィーシー派の西アフリカとド・ゴール派の赤道アフリカ等が含まれてゐる。この外蘭領にはアンゴラ、モザンビーク等があり、又伊太利領等もある。而して阿弗利加に侵入した白人達は阿弗利加の分割が終つて息づく暇もなく、先住民の黒人と激烈なる鬭争を展開しつゝ飽くなき搾取を續けて、他面に於ては暗黒阿弗利加の開發に全力を注いだのである。この阿弗利加大陸の發見は南北兩米大陸と殆んど同期間に發

見されたのであつたが、南北兩大陸に比して自然的條件は頗る悪かつたために、白人の先驅者達は非常なる勞苦と犠牲とを拂つて惡疫または猛獸と戦ひつゝ、又他面に於ては蠻族と戦ひつゝ、其の植民地の擴張と開拓とに必死の努力を續けたのであつた。斯くて阿弗利加の經濟が軌道に乗つたのは誠に今世紀に入つてからであるが、元々阿弗利加がスエズ運河の開通に依つて一舉にして歐洲から二千哩も近くなつたこともまたその原因をなしてゐる、彼の産業革命の結果人と馬力に依る原始的なる生産力が歐洲大陸で飽和點に達すると、その餘力が未踏の地阿弗利加に向つて流れ込んだのである。キンバレーにダイヤモンドが發見されて急速なる經濟的發展を遂げた南阿に於て先住オランダ人と英國人との角逐は彼の南阿戰爭を惹起したのであつたが、一體熱帯阿弗利加には白人の永住して實際仕事に當る地方はその廣大なる面積に比して頗る狭い地域であつたに拘らず一時に多數の植民地ハンターが殺到したので、その競争は激烈の狀況を示して、そこに行はれた大陸分割は勢い衰

慘なものとならざるを得ないのであつた。現に英國は南阿フリカの外、北阿に埃及、スーダン、東阿フリ加にウガンダ及びケニヤを得て、所謂シー・ツウ・シー政策に依つてカイロからケープタウンに至るまで自國領土に依る阿フリ加の縦斷を計畫し、更に西阿フリ加奴隸海岸に臨むナイジエリヤを獲得して居る。佛蘭西は北阿のアルベリヤ、チュニスを保護國となし、曩の英軍の不法占領せしマダガスカルを植民地として更にセネカル地方にも廣大なる領土を持ち、ベルギーはコンゴ自由國を建設し、獨逸は東海岸にタンガニカ地方と西海岸にトゴランド、カメルン並に獨領西南阿フリ加を得てゐる。其他伊太利、ポルトガル、西班牙も各所に植民地を開拓して阿フリ加大陸は純然たる植民地大陸を形成するに至つたのである。

阿フリ加の經濟的價値

偕て茲に阿フリ加を經濟的に觀察すると、全體阿フリ加はその經濟開發の歴史が未だ若いのであるから他に比して非常に遲延の狀態にある。併乍ら資源關係に於てはこの大

陸に鑛産物を多く産出するのは主として南阿聯邦とベルギー領コンゴ、南北ローデシヤである。殊に南阿と云へば誰でも金とダイヤモンドを聯想する如く、近來この金産出額は相當の額に及んでゐる。また金はギニー灣の所謂黄金海岸及びマダガスカル島北方からも産するが、この外に石炭も相當量埋藏されてゐて近時大規模の採掘に取りかゝつてゐる。又コンゴの銅産出も注目すべきである。要するに阿フリ加は現在に於ては鑛産資源は金剛石、金、銅、クロム、石棉等であつて戰時物資の大切なる石油はこの廣大なる大陸に於て頗る少量の産出を見るのみである。更れば眠れる地下無限の寶庫はその本體を現はさず居るのである。併乍ら石油問題は近時益々切實のものとなつて居るので、トランスバールでは油母頁岩から製油を行ふ會社が設立されて居り、又南阿では石炭液化が研究され更に今回英國の不法占領したるマダガスカル島と赤道阿フリ加では佛蘭西が爆發油調査會を設けて探查が行はれてゐたのである。更にこの大陸に於ける農産物方面を見ると、東阿諸島

では砂糖黍が主要産物であり、奥地ではサイサル麻、棉花、護謨、コーヒー、茶、コ、ア、椰子等を産し、西アフリ加では古くからコ、アの栽培が行はれてゐるが、最近では油パーム、バナ、コーヒー等が主として栽培されてゐる状況である。一體アフリ加は東阿にはその地勢上耕地面積が多いが、西阿は森林地帯を形成して居る關係上、耕地農業は東阿に比べて左程重要ではないのであつて、東阿では新經濟形態をもつて白人が主として農業に従事して居るが、西阿では黒人の支配的勢力範圍に屬してゐる。尙ほアフリ加は歐洲に近き熱帯大陸なるが故に、こゝに産する野菜、果實は歐洲文明諸國にとつては特に重要食糧として取扱はれて、最近戰爭勃發前までは冷蔵設備を持つ優秀船がアフリ加沿岸に配せられて果實及び野菜類を歐洲に持つて來て居た程である。

アフリ加の貿易狀況

翻てアフリ加の對外貿易を見ると、元來この大陸は未開原始的なる自給自足の經濟的立場を續けて永年こゝに立籠

つて居り、且其の廣大なる面積の割合に人口は頗る稀薄なるがために貿易を左程必要とせないから、従つて貿易も大いしたものではないのである。さり乍らアフリ加の貿易は最近では漸次増加して世界經濟圏内に入らんとするの傾向を帯びて來たが、殊に今次歐洲大戰勃發前には益々その傾向が顯著となりつゝあつたのである。プロック經濟主義によつてアフリ加貿易の植民地的性格は非常に濃厚となつて來たが、今茲に統計に依つて大陸別貿易額の世界總額に對する百分率を見ると、

	一九二九年	一九三二年	一九三八年
歐洲(蘇聯邦を含む)	一・五四%	五六・二%	五二・三%
北 米	一七・七%	一四・二%	一四・二%
中南米	八・六%	七・二%	八・四%
亞細亞	一四・〇%	一三・七%	一五・三%
大洋洲	二・七%	二・五%	三・三%

に比してアフリ加は僅かに千九百二十九年度は四・六%、同三十二年度は六・二%、同三十八年度は六・五%となつてゐる、更にアフリ加大陸に最大の領土を持つてゐる。佛

蘭西、白耳義、伊太利の三國についての對阿弗利加貿易額
を見ると、(百分率)

輸 入	佛 蘭 西	白 耳 義	伊 太 利
一九二九年	一一・〇%	三・九%	〇・五%
一九三五年	二五・八%	七・三%	一・九%
一九三八年	二七・二%	八・三%	一・八%

となつて居り、また輸出は、

一九二九年	一八・八%	二・六%	二・二%
一九三五年	三一・六%	一・〇%	一四・三%
一九三八年	二七・五%	一・九%	二三・三%

となつてゐる。これを見ても第三國貿易をブロック内貿易
に轉換しようとする近年の傾向を窺知出来るのである。尙
ほ阿弗利加と我國との貿易關係は大戦以前までは輸入はエ
ジプト及び東阿弗利加の棉花、エジプトの燐礦、南阿聯邦
の羊毛及び東阿弗利加の曹達灰等が主たるものであつたの
に對して、我國より阿弗利加に輸出は綿製品、雜貨、人綿
布等の輕工業と陶磁器が主なるものであつたのである。

阿弗利加の交通狀況

更に阿弗利加の陸上交通についてその概要を見ると、鐵
道建設はこの大陸に於ては、十九世紀になつてから始まつ
たのであるが、其の結果島嶼又は海岸地方に於てのみ可能
であつた。近代的經濟形態が漸次奥地にも及ぼしつゝある
が、地形上道路と云ふが如きものなく又河川の舟運を利用
できないこの大陸に於て鐵道の持つ意義は重要であるが、
併乍らこの鐵道も南阿聯邦其他數ヶ地域の布設に止まつて
この廣大面積に比較して頗る延長哩の僅少なるがために、
未だ資源開發交通等には餘りに役立たざるの狀態にある。
現に英人に依つて計畫されてゐるケープタウンからカイロ
に至る所謂縱貫鐵道の如きも僅かに完成したのはその半ば
にも過ぎない有様で、今次の大戦のため殘餘の部分の布設
はいつ完成されるか見込みも立たざる狀態にあるが、他方
近年に於ける佛蘭西の植民政策は人口漸減に悩むために人
的資源の調達を主眼として阿弗利加植民地に於て先づ巨大
なる人的資源を開發して、自國軍隊を充實することにその

力を注いでゐたのであつた。現に佛蘭西は前の世界大戰に於て阿弗利加の原住民約百九十萬人を動員してその内六十八萬人が武装して戦線に送つたのであつたが、今次の大戦勃發前に於ても佛蘭西軍隊中には約三分の一は有色人種に依つて構成されて居た位である。更れば北西阿弗利加の原住民を本國に送ることは佛蘭西動員計畫の核心をなすものであつて、これが爲に佛蘭西は作戦の見地からサハラ沙漠の交通開發と地中海航路の確保に重點を置いたのである。北阿の鐵道網は既に大體整備が終り、又サハラ沙漠の縦斷鐵道の布設に過去數十年間に互つて幾度か計畫されたが、佛蘭西政府は戰前情勢の緊迫化に對應して千九百四十三年の春即ち今年の三四月頃までに完成の豫定を以て敢然これに着手したのである。この鐵道は地中海の海岸よりモロッコに入つて二本に分れてダカール、コンクアチ等を終點とするものであつて、獨佛休戰後は北阿樞軸軍に對する軍用輸送路として獨佛協力して目下その完成を急ぎつゝある。

大陸の三本ルート

暗黒大陸には米英軍にとつては戰略的重要性を持つルートは東西に三本走つてゐる。其の内最北ルートはチャード湖を經るのであるが、このチャード湖に至るにはナイジェリヤの彌や發達した交通網があつてこれを利用すると、佛蘭西領カメルンのゾアラを出發點としてヤウンデから北進する自動車路によるのである。而してチャード湖に至る途中のカノーまではニジェリヤのラゴス港及びハーコート港から鐵道が通じてゐる。更にナイジャー河の下流は河口からラゴス、カノー間の鐵道がこの河川を横ぎるところまで船が廻行出來るのであり、又他の交通路はラゴス、カノー間の鐵道に沿つて自動車路があるが、この道路はカノーを越えてクカに至つてゐる。而してこのルートの最難關はチャード湖からエル・ファツシアに至る沙漠の丘陵地帯であつて、約千二百キロの遠距離を隊商路を通らなければならぬのである。更にエル・ファツアとエル・オベイド間には稍や整備された自動車路があり、またエル・オベイドからは狹軌鐵道があるが、このルートの全行程はラゴスからア

レキサンドリアまで約六千キロの長き距離にあるに加ふるにこのルートは米英から中迎汽船で軍需品等を陸揚げして戦線に運搬するには千五百臺の貨物自動車若くは四萬頭の駱駝が必要であると云はれてゐる位困難なる道である。更にカメルンからスダンに達する所謂大陸横斷ルートは佛蘭西領カメルンのヅアラからヤウンデを経てコンゴ河の航行可能なる地點バングイまでは自動車道路がある。これからは河を遡つてニアンガラに達して更にこゝから自動車路に依つてナイル河の上流シュバに結ばれてゐるが、このルートは自動車道路だけでも千五百キロに達するのである。

この外にもう一つのルートはベルギーの前首相が「ベルギー領コンゴは急速に西亞に對する米國のルートとなりつゝある」と昨年聲明したる所謂ベルギー領コンゴを通るものである。夫れはコンゴ河の下流は瀧のために水運には利用出来ないが、水運には利用出来るのはスタンレー・プールといふブラザワイルとキンシャサとの間に河によつて出来た廣いプールのみであるが、このプールは二本の鐵

道によつて海岸と結ばれてゐるのである。即ちボワン・ノールからブラザワイルに至る鐵道と他はマタデイからキンシャサに至るものであるが、スタンレー・プールからスタンレー・ヴィルに至る所謂コンゴ河の上流千七百キロの間は薪を燃料とする河蒸汽船が物資及び人間を運び更にスタンレー・ヴィルからはニアンガラに至るまでブタ・バムピリを通過する自動車道路があつてニアンガラからは前記の大陸横斷ルートに合するのである。

輸送力は非能率的

斯様に三ルートはあるが、西阿弗利加から北海及び西亞に物資等を運搬するには、その輸送能力は頗る非能率的である。この内でも最後のコンゴ・ウガンダ・ルートは最も重要なものであるが、併乍らこのルートも絶へず貨車から船へ更に船から貨物自動車へと度々積替なければならぬのみならず、ナイルの中流に沿つた鐵道は狹軌のためその輸送能力は少なく、又コンゴ河の河船輸送力も非常に小なると加ふるに奥地に於ける自動車燃料をはるく

運搬して行かねばならない結果非常なる困難が伴ふのである。昨年の初頭米國の參戰後間もなく前記した中央阿弗利加を通ずるルートを米英が使用したのであつたが、現在佛蘭西領北阿を經由して直接的に地中海に近づく希望を見出したのである。中央阿弗利加を通ずるルートの發展には將來を考へて努力すると思はれるが、沙漠を横斷する自動車交通は近時相當の發達を來たしてゐる。チャド湖及び其の

西方約二百五十哩のチンダールから地中海のアルゼリヤに通ずる沙漠横斷自動車路は既に開通して冬期の十二月中旬頃から一月の中程まで茲に起る砂暴風の期間を除いては一ヶ月を通じて交通可能であるが、夫れでも時々強風で道路が砂で埋れることは屢々ある。而してこの道路の所々には驛を設けて信號塔を建て、各驛間を無線電信で連絡するやうになつてゐるが、三十人乗位の定期乗合自動車は一週間に二回通ひ、この阿弗利加横斷輸送路中自動車路はその全行程千三百哩にして所要日數は十二日間を費やすと云はれてゐる。全體阿弗利加の横斷道路は前記したやうに物資

の輸送は鐵道に積み替へたり、いろ／＼して輸送は出来るとして左程大なる輸送力がなく、殊に何れのパ線を輸送するも凡て數千哩の長距離に互る酷熱の沙漠又は密林地帯を縫ふて通ふて居り、且氣候の不順を冒して交通するのであるから、その困難は更に言語に絶する困難をきはめるのである。

大陸文化經濟の黎明

さればこれ等の諸ルートは其の輸送力から觀察すれば、喜望峰迂回の海上航路輸送の補助手段として僅かに役立つ位のものであるが、併乍ら米英側にとつては樞軸國側潜水艦の活躍による海上航海の危険と脅威とから免かるために輸送力の問題とその非常なる困難とを度外視して迄も現在これを確保せねばならないので相當の力を致してゐる。かやうに阿弗利加の交通路……輸送路を見ると、大陸の交通路は勿論整備完全の區域に達するまでには頗る前途遠遠の感がある。元々阿弗利加の原住民は北部に住居するハム族を除けば道路を造るといふやうなことは全く知らず、從

つて現在でも地方では原始的の交通をなしてゐる程で、嘗て阿弗利加に隣通してゐる某氏は、東阿弗利加タンガニカの奥地タボラ附近では一ケ年間に貨物人夫は約五十萬人が通過したが、然るにこれ等人夫の飲料食糧の補給及び運搬だけでも大變であつて、従つて貨物そのものを運搬する力は大いに減殺されたために、一應の貨物を運搬するに四十人の人夫を要して大湖から海岸までの運搬費は當時應當り四十磅の高額に上つたと云つてゐるのを見ても如何に輸送力の非能率的なるを思はしむるので、ある更れば經濟的には問題にならず、従つて奥地の資源開發等にはまだ阿弗利加の交通路は多大の價値を有せないのである。併乍ら英國人が先年西阿弗利加のラゴスの奥地から海岸の鐵道沿線まで貨物を搬出するに始めて自動車を用ひたが、これが勞賃の安い黒人の運搬費より自動車による運賃の方は遙かに廉價であつたとのことである、英國は曩の世界大戰中に多くの自動車を阿弗利加の開發に利用して本國の原料食料品の補給に役立たしめたが、戦後に引續いて奥地に自動車道路

の施設を設けてその開通に力を注いたので、阿弗利加の經濟的發展は自動車の力に依つて多少面目を一新したかに見えるのである。即ち従前はサハラ沙漠を横斷するに一時間二哩の駱駝でなければならなかつた爲に、數十日を要したのに拘らず現在は自動車及び飛行機に依つて著しい短縮を見ることとなり、航空運輸の如きも漸次形態を整ふて來るやうであるが、佛蘭西國營の阿弗利加航空會社が定期航空路を開設してアルゼリヤからサハラ沙漠を横斷し、佛領コンゴのブラツザヴィルに至る間を四日で突破してゐる有様である。又最近の外電に依ると汎米航空會社は今回アフリカ東亞航空會社を創立して本社をマイアミに置くこととなつたと傳へられてゐるが、同航空會社は阿弗利加大陸横斷路線による重慶への物資輸送又は交通の定期航空開設につき米軍當局と目下頻りに協議中とあるが、茲に英米の金權主義と飽くなき侵略主義はこの大陸への進出は分割以來五十年の暗黒大陸であつた阿弗利加にて漸く文化經濟の黎明が訪れたのである。

今次歐洲大戰と戰略上の地位

思へば今次の世界大戰は從來世界の動搖を吾れ關せずとして眠り續けて來た。この暗黒大陸をも何等の條件なしに世界動亂の渦中に投げ入れて仕舞つたのである。南阿の首相スマツツは這般英國議會において英國の頽勢挽回のためには阿弗利加の重要性と地中海攻勢の必要を強調して居るが、既に日獨潜水艦はこの大陸の近海で活躍をなしつつあり、北海は硝煙に包まれてゐる状態にある。この阿弗利加の占める戰略上の重要地位は地圖を一瞥すれば判明するが如く、世界中でも最重要なる地中海を抱いて歐洲に對峙すると、加ふに樞路スエズ地峽は直ちに問題の近東諸國イラン、イラク「嘗て本誌に記載せり」も指呼の間に望み得るのみならず、米國の生活線南米とは南大西洋を距て、最短距離に位し、從つて阿弗利加西岸の歸趨は直ちに米國にも重大なる影響がある。さればこの大陸の爭奪戦は、益々重要性を帯び來つて戰爭を一段とより大なる戰爭に導くのである。即ち西阿の戰場は大陸を横斷して北阿の戰場に通じ、

更に北阿の戰場はスエズを通じて歐洲の戰場につゞくのである。更に他面に於ては今次の大戦は阿弗利加の内陸に多大の影響を及ぼす結果を招致すると思ふのである。夫れは既に黎明期に近づきつつある、この大陸をして戰亂を通して空から或は陸から横斷する物資輸送路の建設又は南大西洋及び印度洋に面する一帯の米國海岸の武装強化と港灣施設の擴充を自然的に促すに至るであらう。こゝに阿弗利加の持つ重要性は現實に吾人の視野に擴大せらるゝに至ると同時に、彼のヴァスコ・ダ・ガマのこの大陸發見以來西歐人の間には續々とその探險家が現はれてこの地に入り、西阿弗利加の一部には植民地を設けられて金及び象牙の賣買と奴隸の賣買が盛んに行はれ、又東部及び南部に於ても同様にその勢力が次第に伸展して行くと共に奥地の探險も千七百八十八年阿弗利加協會の創立以來度々行はれて阿弗利加はその全貌を世界地圖に漸く現はしたものの、十九世紀の後半迄は歐洲人にとつては東方發展の飛石若くは好奇的冒險の對象であつたのに比較すると誠に意義深きものがある。